

とんでもないアイデアととんでもない パワー（行動力）が青森を救う！

公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団
理事長 鎌田 孝範



「とんでもない」を辞書で引くと、「思いもかけない、意外な」とあります。また、慣例的な使い方には「非常識な、許容外の、はた迷惑な」と否定的な意味もあり、「とんでもない奴だ！」とか「とんでもない考えだ！」といった場合「バカこの～」と同意語とされることも多いでしょう。

私がここで使う「とんでもない」は良い意味でも、悪い意味でも、世間様から100%ご支持いただけるものではありません。結果として「いいね！」となるか「バカたれ！」となるかやってみなければ解らないという、無責任極まりないものであります。ただ、「思い付き」や「盛り上がり」程度では将来はあまり変わらないと思うのですが。

アイデアはどこにでもあると人は言います。「チョット見方を変えれば、チョット切り口を変えればアイデアはいくらでも湧いてくる」なんてことは現実にはありません。そうそう簡単に「アイデア」が出たら誰も苦労しないはずです。

「背水の陣」とは後がないギリギリの状況をいますが、「とんでもないアイデア」もギリギリの状況で、もう後がない中から生まれることがほとんどです。（「思い付き」と「アイデア」は根本的に違うのです。）

私たちは「とんでもないアイデア」を見つけたら、そのアイデアを具体的な「形」にしなければなりません。「とんでもないモノ」を具現化するので当然「とんでもないパワー」が必要になります。

パワーにはいろいろな要素があります。行動力、問題解決能力、チーム力、他との協調等々。そして資金（お金）です。

人が行動する、人が目的のために動くためには、やはり「お金」が必要です。そこで私共「むつ小川原地域・産業振興財団」が登場します。ところが、「私共に任せなさい！」と見栄をきる

ほどお金はありません。結構けち臭く、こじんまりとやらせて頂いております。

言い訳をするつもりもありませんが、当財団でご提供できる資金を皆様の「とんでもないアイデア」を「とんでもないパワー」で実現するためのキッカケにしてもらえないでしょうか。私共はアイデアとそれを推める企画と計画にお金（少しですが）の支援という型で参加させていただきます。

当財団の主な事業には「原子力施設立地振興対策事業」（市町村向けに主に公共用施設の整備に利用）と「プロジェクト支援事業」（市町村、産業団体、地域団体を対象にしたアイデア活動に対する支援）があります。「プロジェクト支援事業」に関しては、毎年150先ほどのお申込みをいただき、ヒアリングや検討委員による審査を経て、100先ほどを支援対象とさせていただいております。平均的な支援額は、1先当たり100万円位です。（詳しくは、当財団のHPをご参照ください。）

そして、両事業には共通したテーマがあります。それは「青森のために」という極めて当り前であり、解りやすいテーマです。当財団の事業は平成元年にスタートしました。来年で30年になります。今大事なことは、30年の実績ではなく、これから30年何をするかということでしょう。

継続的に事業をすすめるために最も必要なのは、「人」と「お金」。「とんでもないパワー」を捻出するためには、この2つを大きくしていかなければなりません。より大きな人的要素と経済的基盤が「とんでもないパワー」となり「とんでもないアイデア」を育てるものと確信します。そして育てていく過程の中で青森というふるさとに大きな影響をもたらすことは言うを待ちません。「真のアイデア」は青森を救います。